

教科	家庭	科目	保育基礎	年次	3～4	単位数	2
使用教科書 (副教材など)		保育基礎（実教出版）					

学習目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指します。 (1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 (2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養います。 (3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。	
評価の観点	① 知識・技術	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考査に加え、提出物（製作物、学習プリント等）、小テストの成績などで総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。	

	単元	学習内容
前期	1 保育の意義	・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのように関わるかを考えます。 ・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身に付けるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深めます。 ・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解します。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子供の健やかな発達のために適切な保育環境について考察します。 ・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解します。
	2 保育の方法	
	3 保育の環境	
	4 子どもの発達の特性	
	5 子どものからだの発達	・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴を捉え、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解します。 ・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係の広がりについて考えます。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子供の心の発達を捉えます。 ・子供が心身の健康を保つための保育の技術を習得します。 ・乳幼児期の栄養や食事（乳汁栄養や離乳食、幼児食など）の特徴を、実習を通して理解します。 ・子供の衣生活と育児用品について、身体特徴を踏まえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択します。
	6 子どもの心の発達	
	7 子どもの生活と養護	
後期	8 生活習慣の形成	・基本的生活習慣と社会的生活習慣の意義と重要性を理解し、子供の発達に即した適切な生活習慣とその援助について考察します。 ・子供の健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解します。 ・子供の事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例と合わせて理解します。 ・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子供の文化を支える場が、子供の健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解します。 ・子供の遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解します。 ・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにします。
	9 健康管理と事故防止	
	10 子どもの文化の意義と支える場	
	11 子どもの遊びと表現活動	
	12 子ども観	・子供観は国や地域、時代によって変化していることを理解します。 ・時代の変化と共に子供が権利の主体として尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解します。 ・子供の福祉に関心をもち、児童福祉の理念や法律と制度について理解します。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子供の幸せとは何かを考えます。 ・子供を地域や社会で支える子育て支援の具体的な場や制度について理解します。また、子育て支援の今後の課題と展望について考察します。
	13 子どもの福祉	
	14 子育て支援	